

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.12**
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第63号

II期工事本格化

TOPNEWS



理学部屋上から撮影。右下は総合情報処理センター
=平成13年12月5日



左)平成10年10月 右)平成11年11月 (いずれもアカンサスニュース第42号から)
平成9年度から始まった総合移転第II期工事がいよいよ本格化し、自然科学研究科総合研究棟Iが着工の運びとなった。



くわ入れする林学長(上)と、すき入れする関係部局長等。左から畑副学長、辻彰薬学部長、畑朋延工学部長、尾田十八自然科学研究科長、和田敬四郎附属図書館長、橋本哲哉総合移転実施特別委員会委員長



11月2日には施工業者によって安全祈願祭が催された。林勇二郎学長がくわ入れ、畑安次副学長をはじめ関係部局長等がすき入れを行い、建物の無事完成を祈願した。

巻頭言

「大学評価・学位授与機構」のヒアリングを終えて



点検評価委員会委員長
工学部長

畑 朋 延

大学評価・学位授与機構は、平成12年4月これまでの学位授与の事業に加え大学等の評価に関する事業を併せて実施する機関へと改組されました。同機構の行う評価は、第三者機関として大学等の教育研究水準の向上に資するため、教育研究活動等の状況について評価を行い、その結果を大学にフィードバックして、教育研究活動等の改善に役立て、いろいろな活動状況や成果を社会に公表し、大学に対する人々からの理解や支持が得られるよう支援しようというものです。評価の内容は、全学テーマ別評価、分野別教育評価及び分野別研究評価の3区分があり、全学テーマ別評価は国立大学を対象とし、平成12年度は、1)「教養教育」(平成13年度継続中)、2)「教育サービス面における社会貢献」が実施されました。

この教育サービス面における社会貢献に係る評価のプロセスは、過去5年間の活動状況を根拠となる資料をもとに目的・目標に係る自己評価を行い、4月に事前調査の回答を送付、6月はじめに調査結果がフィードバックされて来て、7月末に自己評価書に根拠資料を添えて提出し、その後、不足資料や

データを作成し提出するなどのやり取りがありました。一連の書類を提出し書面調査が終わり、10月にヒアリング調査を迎えました。大学事務局では調査内容の検討、根拠資料の収集、問答集の作成などヒアリングの準備に追われました。

国大協主催の大学評価シンポジウムの際、同機構が委嘱した評価委員の先生方は勉強されているとの評判が高かったのですが、実際にヒアリングを受けてみると評判どおりで、本学から提出した報告書及び千頁余りの資料を十分理解している人にしか判らない質問もありました。質問に対する答弁は、主に金子勲栄点検評価委員会社会貢献小委員会委員長にお願いしました。ヒアリング中、評価委員とは非常に友好的に回答でき、結果を一言で表現すれば目的・目標をおおむね達成しているという評価でした。これもひとえに、一年にわたる金子小委員会の方々の大変な努力が功を奏したものと感謝しており、来年の三月に公表される最終結果が楽しみです。

ヒアリングを受けて、目的・目標達成のため各人が何に取り組んでいるか、どのような努力をしているかという根拠をいかに示すかを、データで残しておいてこそ説得力が伴うのだと再確認しました。教養教育や学部教育や研究においても、どのような切り口で尋ねられようがそれに的確にかつ説得力をもって答えることが必要です。評価の結果は、今後、資源配分の一要素として利用されると聞いています。競争的環境の中で個性が輝く大学となるために、各分野で高い評価を受けるために、すべてが金沢大学人として努力することを期待するものです。

目次	II 期工事本格化.....	1	北陸技術交流テクノフェア2001.....	8
	「大学評価・学位授与機構」のヒアリングを終えて.....	2	情報通信の最先端 ギガビットネットワーク・	
	元金大留学生を招き 留学生国際シンポジウムを開催.....	3	セキュリティシステムが完成.....	8
	タイで2001年日本留学フェア.....	3	小泉晶一教授「北國文化賞」を受賞.....	9
	日本海沿岸の経済交流活性化を図る		八木谷聡助教授「産学連携推進いしかわ賞」を受賞...	9
	「環日本海(東海)経済交流と日本海国土軸」を開催...	3	岡島厚教授, 立矢宏助教授	
	附属幼稚園 第1回保育を語る会.....	4	「助産谷学術文化スポーツ振興財団」大学奨励金を受賞...	9
	附属小学校 第52回教育研究発表会.....	4	小川智教授, 高倉伸幸教授	
	附属中学校 第50回教育研究発表会.....	4	「財医科学応用研究財団」研究費助成に選ばれる...	9
	附属高等学校 第18回高校教育研究協議会.....	4	鎌田直人助教授	
	薬学部 FD研修会を実施.....	4	「日経サイエンス創刊30周年記念論文」に入選.....	9
	工学部・理学部 オープンキャンパス大盛況.....	5	石川県地区国立学校等事務職員研修(会計).....	9
	工学部「てくてくテクノロジー」.....	5	本学へのお客さま.....	10
	理学部「ふれてサイエンス」.....	5	発行.....	10
	寄贈絵画でやすらぎの回廊 医学部附属病院.....	6	角間の里山自然学校.....	11
	「看護用具工夫作品展」を開催.....	6	北陸国際問題学会研究会・総会.....	11
	新病棟点描.....	6	好評だった金大の花壇.....	11
	第38回金大祭「いまここで、翔べ。」.....	7	防火訓練.....	11
	寮祭前夜祭 神輿を担いで市内を練り歩く.....	7	「平成13年度永年勤続者表彰式」を挙行.....	12
	市民公開セミナー「がん医療の最前線」.....	8	編集後記.....	12
	文学部, 法学部 外部点検評価を実施.....	8		

国際交流

元金大留学生を招き 留学生国際シンポジウムを開催



あいさつする林学長(上)と
招へいされた元金大留学生



コマツ・筆谷人事部長



11月17日、留学生国際シンポジウム2001「金沢がはぐくむ国際教育交流—元留学生の提言—」が金沢市内のホテルで開催され、約180名が出席した。

林学長と畑副学長のあいさつの後、本学の留学生交流を長年支援しているコマツの筆谷欣五郎人事部長による特別講演があった。続いて、海外や日本国内で活躍する元留学生6名によるパネルディスカッションが行われ、「留学生の就職支援体制をさらに整備してほしい」などの提言があった。

タイで2001年日本留学フェア

10月27、28日、タイ・バンコクコンベンションセンターで日本留学フェアが催され、日本から本学を含む計39大学が参加した。本学のブースには、タイの大学生を中心に約150名が訪れ、学部組織や金沢の位置などについて質問があった。全体の来訪者の約7割が女子学生で、熱心に話を聞く姿が見られた。



説明する藤崎礼志自然科学
研究科講師(上の写真、左)

日本海沿岸の経済交流活性化を図る 「環日本海(東海)経済交流と日本海国土軸」を開催



あいさつする石田啓日本海域研究所委員会委員長
＝県女性センターで

11月25日、本学日本海域研究所と経済地理学会の共催による国際シンポジウム「環日本海(東海)経済交流と日本海国土軸」が県女性センターで開かれ、約70名が出席した。

シンポジウムでは、日本、韓国、中国、ロシアの研究者により、日本海沿岸地域相互の経済交流を活発にするための課題について討議された。

研究・研修

附属幼稚園 第1回保育を語る会

今回が初の開催となる。全クラスの保育公開や、小川博久日本女子大学教授を講師に招いての全体会などが実施され、地域の教育関係者と共に実際の保育について、きたんのない意見交換が行われた。



活発に意見交換された全体会
=10月13日、附属幼稚園で

附属小学校 第52回教育研究発表会

公開授業や領域別研究協議会のほか、「県内の特色ある4校を招いて」として、鳥屋小、南小立野小、明成小、矢田野小を招いてのフリーセッションが開かれた。



フリーセッション会場
=11月16日、附属小学校で

附属中学校 第50回教育研究発表会

全国から約300名が参加した。全体会、公開授業、教科別分科会の後、月岡英人国立教育政策研究所教育課程研究センター長による講演が行われた。



公開授業と講演する月岡氏
=11月20日、附属中学校で

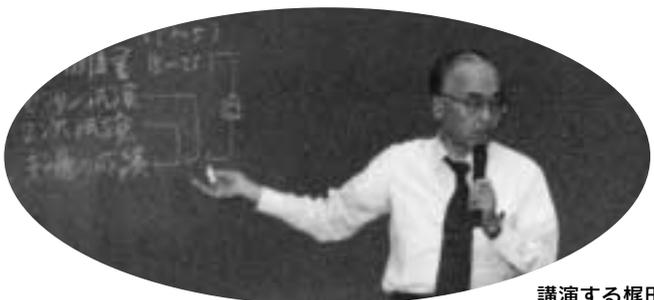
附属高等学校 第18回高校教育研究協議会

県内外から約160名が参加した。公開授業や分科会に続き、全体会では石原多賀子金沢市教育委員会教育長による講演が行われた。



理科の公開授業
=11月9日、附属高校で

薬学部 FD研修会を実施



講演する梶田名古屋大学大学院教授

11月17日、「成績評価」と「学力形成」をテーマに薬学部教育方法改善（FD）研修会が金沢市内のホテルで実施された。

中垣良一教授による報告に続いて、講師として迎えた梶田正巳名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授による講演があり、全体討議が行われた。

大学開放

工学部・理学部 オープンキャンパス大盛況

文化の日の11月3日、工学部と理学部でオープンキャンパスが実施され、両会場はこどもや家族連れ、受験生、市民などでにぎわった。当日は来場者の便を図り、小立野と角間の両キャンパスを結ぶ往復バスが運行された。



「界面活性剤の不思議」(上)と「創造デザイン実習」(右)



「細胞とDNAを見る」(右)と「イーストによる醗酵の実験～パンを作ってみよう～」(下)



工学部「てくてくテクノロジー」

小立野キャンパスの工学部オープンキャンパス「てくてくテクノロジー」は、500名を超える来場者があった。会場ではコースやスピードを自動的に変化させる機能をもつピッチングマシン、デモ実験や体験コーナーで日頃の研究成果を披露した。受験希望者や父母のための受験相談コーナー、共同研究センターによる技術相談コーナーも設けられた。

また、旭保彦氏(ヤマハ株)による特別講演会も開かれ、約80名の会場は聴講者であふれるほど盛況であった。

理学部「ふれてサイエンス」

角間キャンパスでの理学部第9回オープンキャンパス「ふれてサイエンス」は、過去最高の900名を超える来場者があった。

超伝導や細胞の世界をわかりやすく紹介する実験、パン作り、紙のDNA模型作りなど多彩な企画が催され、来場者が楽しみながら科学にふれる姿が見られた。数学相談コーナーも設けられ、学習についての相談や、数学に関する日常の疑問などが寄せられた。

附属病院より

寄贈絵画でやすらぎの回廊 医学部附属病院

このたび医学部附属病院に、医学部同窓生や患者、その家族らから計59点の絵画が寄贈された。同絵画は新旧の病棟廊下に飾られ、患者から「心がやすらぐ」との声が寄せられている。

寄贈作品の一つ「きいろのドレス」。作者は元教育学部教授の故・北濱淳さん。
北濱さんは日展特選を受賞した画家でもあった。
11月20日、寄贈者である妻の静子さんが新病棟に飾られた作品を訪ねた。



油彩から水墨画まで幅広い寄贈絵画が並ぶ病棟廊下

「看護用具工夫作品展」を開催

11月12, 13日、「やすらぎ」をテーマに附属病院看護部による「看護用具工夫作品展」が開れた。計31点が出品され、過去最多の300名を超える来場者があった。



看護部職員により考案された作品の数々

新病棟点描



「全国都市緑化いしかわフェア」の本学出展の花壇に飾られた「水」をモチーフにした白いベンチ（左上）。患者が自由に利用できるソファールーム（右上）と食堂（下）も各階に完備されている。

キャンパス文化

第38回金大祭「いまここで、翔べ。」

11月1～5日、第38回金大祭が「いまここで、翔べ。」をテーマに開かれた。講演、展示、発表、ストーリーパフォーマンスなど今年も多彩な企画が催された。



みこし 寮祭前夜祭 神輿を担いで市内を練り歩く

あいさつする
畑副学長

11月10日、北溟・泉学・白梅の3学生寮合同による寮祭前夜祭が催された。寮生は手作りの神輿6台を担ぎ、市民に寮祭をPRしながら金沢市内の大通り沿いを練り歩いた。到着地の北溟寮ではその神輿を燃やし、ファイヤーストームが行われた。



手作りの神輿(左)とファイヤーストーム(上)
＝北溟寮で

トピックス

市民公開セミナー「がん医療の最前線」

11月3日、がん研究所主催による初の市民公開セミナー「がん医療の最前線」が、泉野図書館オアシスホールで開催された。山本健一所長のあいさつに続き、田中基裕助教授、源利成教授、磨伊正義教授が順に講演した。

130名を超える聴講者にはメモをとる姿も見られ、質問・面談の時間には列ができた。



満席となった会場
＝泉野図書館オアシスホールで



文学部(上)と法学部
(右)での質疑応答

文学部、法学部
外部点検評価を実施

外部点検評価が、11月5日に文学部、9日に法学部で実施された。外部評価委員として、文学部では池田紘一九州大学大学院人文科学研究院長ら6名、法学部では大木雅夫聖学院大学大学院政治政策学研究科長（前日本学術会議・第二部会長）ら6名を招き、それぞれ視察や本学教官との質疑応答、講評などが行われた。

北陸技術交流テクノフェア2001

10月26、27日、「北陸技術交流テクノフェア2001」が福井県産業会館で開催された。本学からは共同研究センターと工学部デジタルシステム研究室の2ブースが出展し、研究成果を実演した。北陸地域の産官学が一室に会する同フェアは、延べ約3万人の来場者があった。



指向性アレースピーカによる音場移動の実演
＝福井県産業会館で（デジタルシステム研究室ブース）



インターネットテレビ会議に臨む林学長（左）
＝総合情報処理センタープレゼンテーション室で

情報通信の最先端
ギガビットネットワーク・
セキュリティシステムが完成

各キャンパス間を結び、他大学とのインターネットテレビ会議などを実現させる超高速情報通信システム「ギガビットネットワーク・セキュリティシステム」が完成し、11月20日に完成記念式典が挙行された。

トピックス

小泉晶一 教授 「北國文化賞」を受賞

11月3日、小泉晶一医学系研究科教授が「第55回北國文化賞」を受賞した。



小泉教授

八木谷 聡 助教授 「産学連携推進いしかわ賞」を受賞

11月22日、八木谷聡自然科学研究科(工学部)助教授が「平成13年度産学連携推進いしかわ賞」の奨励賞を受賞した。



八木谷助教授

岡島厚 教授, 立矢宏 助教授 「(財)澁谷学術文化スポーツ振興財団」大学奨励金を受賞

11月9日、岡島厚工学部教授、立矢宏自然科学研究科(工学部)助教授がそれぞれ「平成13年度(財)澁谷学術文化スポーツ振興財団 大学の新技术研究活動の奨励金部門」で受賞した。



岡島教授



立矢助教授

小川智 教授, 高倉伸幸 教授 「(財)医科学応用研究財団」研究費助成に選ばれる

11月22日、小川智医学系研究科教授、高倉伸幸がん研究所教授が「(財)医科学応用研究財団」研究費助成に選ばれた。



小川教授



高倉教授

鎌田直人 助教授 「日経サイエンス創刊30周年記念論文」に入選

10月6日、鎌田直人自然科学研究科(理学部)助教授の論文「世界遺産『白神山地』に生息するイワナ、その生態と資源量」が、「日経サイエンス創刊30周年記念論文」の佳作に入選した。



鎌田助教授



石川県地区国立学校等事務職員研修(会計)

11月28日から3日間にわたり、「石川県地区国立学校等事務職員研修(会計)」が実施され、本学から職員15名が出席した。



熱心に聴講する参加者
=事務局第1会議室で

学長室から

本学へのお客さま



中華人民共和国 大連大学訪問団と本学関係者
=11月9日, 学長室で



駐名古屋米国領事館領事兼名古屋アメリカン・センター館長 Donna Ann Welton氏(右から3人目)
名古屋アメリカンセンター広報企画専門官・副館長 藤原由紀子氏(右から2人目)

=11月15日, 学長室で



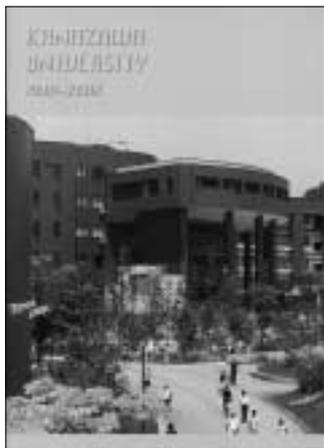
アメリカ合衆国 メリーランド大学ボルチモア校学長David J. Ramsay氏(右から3人目)

=11月19日, 学長室で

発行

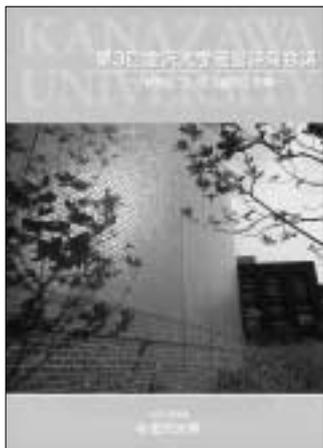
新しくできましたので活用してください

『金沢大学英文概要』



お問合せ：総務部国際交流課

『第3回金沢大学運営諮問会議
- 「研究について」 諮問と答申 -』



お問合せ：総務部企画広報室

『金沢大学 研究者総覧2001』
CD-ROM



お問合せ：総務部研究協力課

里山自然学校

角間の里山自然学校

11月の角間の里山自然学校では、シイタケのほだ木作りと竹炭作りに取り組んだ。大学里山内のコナラを伐採し、玉切りにしてシイタケ菌を植えるほだ木が作られた。近くシイタケ菌を植える予定。また、モウソウ竹を使った竹炭作りにも取り組み、穏やかな秋の1日を里山で楽しく活動した。



モウソウ竹を使っての竹炭作り
=11月24日

サテライト・プラザ

北陸国際問題学会研究会・総会



- ・日 時 11月17日(土)13時～16時
- ・発表者 アレクサンドル・サルギシャン氏
野村 允 氏
- ・場 所 金沢市中央公民館彦三館

お知らせ

サテライト・プラザは、1月中旬に金沢市西町の金沢市西町教育研修館（現在開館準備中）に移転します。皆様の御来場をお待ちしています。

トピックス

好評だった金大の花壇

11月11日、「第18回全国都市緑化いしかわフェア」が閉幕した。本学出展の花壇も好評を博し、開催期間を通して多数の見物客が訪れた。本学を紹介したパンフレット5万部を配布した。



本学出展の花壇(右)と
閉幕式の様子

防火訓練

11月13日、事務局防火訓練が実施された。参加者全員が消火器による消火を体験し、3人1組による室内消火栓を使った放水訓練も行われた。



放水訓練
=事務局横で

「平成13年度永年勤続者表彰式」を挙行

11月22日、「平成13年度永年勤続者表彰式」が挙行された。今回は、林学長から金沢大学永年勤続者29名に表彰状が贈呈され、文部科学省永年勤続者4名に表彰状が伝達された。

これに対し、上條勇経済学部教授が代表して謝辞を述べた。また、式典終了後、会場を移して祝賀会が催された。



表彰式後の記念撮影
＝大学会館大集会室で

編 集 後 記

10月号で林学長が、11月号で花岡副学長が、それぞれ「巻頭言」で本学の「大学改革」の方向性を示しておられますが、今月の紙面には改革の動きを直接伝える記事はありません。ただ、各行事には改革につながるヒントが隠されているように思います。ずっと言われ続けている－金沢という地方都市の文化の香りがする、金沢にある大学らしい、金沢大学を象徴する学部や学科等を考えるべきだ－などの提言には心が動かされます。「留学生国際シンポジウム」では、母校に寄せる元留学生の熱い思いと意見の中に、芳しい金沢の香りと示唆に富んだ「何か」を感じとった先生もいらっしゃいました。

教員養成系大学・学部の統廃合を柱とした「在り方懇」の報告も出され、「改革」はいま、正念場を迎えています。

(総務部企画広報室専門員・大学改革推進室事務室 西谷公作)

平成13年12月21日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5009
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピース))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。